



早水台遺跡の再発掘について	芹沢長介
平成15年の新年を迎えて	相澤千恵子
青少年に伝える相澤忠洋の情熱	山崎弘一
相澤忠洋の文献より	
「北関東赤城山麓に於けるマイクロ・コアの発見」	
「赤城山麓の旧石器を求めて」	
あけぼの	相澤千恵子
相澤忠洋さんに学んだこと	大里仁一
館の動向 (寄贈図書)	
会員ネットワーク	

新年のお祝詞を申し上げます

早水台遺跡の再発掘について

名誉館長 芹沢長介

明けましておめでとうございます。1964年の4月、私は大分県速見郡日出町にある早水台遺跡を発掘し、基盤の直上から石英脈岩等を用いたチョッパー、チョピングツールを主とする石器を発見した。私はこれを日本最古の石器文化と考え、「前期旧石器」という用語をはじめて用いたのであった。それから38年目にあたる2002年9月、私は東北大学の須藤隆・柳田俊雄両教授の協力のもとに早水台の再発掘をおこなった。今回の発掘の目的は、石器を包含する題5層と第6層の実年代決定にあり、早田勉・長友恒人両氏に現場まで御出張を乞い、年代測定の作業が進行中である。

1965年から78年まで、5次の発掘をおこなって10mの深さまで掘り下げた栃木市星野遺跡では、第5文化層から第13文化層までが、3万年前から8万年前の間にわたるものであることがようやく判明した。ちょうどヨーロッパの中期旧石器に相当する時代である。早水台は石器の特色から見てその前に位置すると思われるので、おそらく10~12万年前までさかのぼる年代が測定されるのであろうと私は考えている。

早水台の発掘を了えてから、私は2週間のヨーロッパ旅行に出かけ、パリの古人類研究所にド・リュムレイ教授をお訪ねした。十数年前に仙台でお会いした時に比べると、かなりお太りになられたようであった。私たちは日本の旧石器研究について、かなり深いところまで意見の交換をすることができた。他日、どこかでその報告をしたいと思うので御期待を乞う。



獅子頭を持つ芹沢長介先生

平成15年の新年を迎えて

館長 相澤千恵子

明けましておめでとうございます。昨年は干支の午に因み大躍進を、と願い予告した通り大変充実した一年でした。「夏井戸だより」を創刊することが出来ました事と、会員の皆様と多数の会員以外の方々のご協賛を得て、心掛けておりました館内の模様替えを行う事が出来ました。奥の資料収蔵庫を新設した倉庫に移動し、その所をギャラリーに変身させました。そして照明を蛍光灯でなく移動可能なスポットライトにしました。この照明により今までとは雰囲気が大層変わりました。第10回企画展「相澤忠洋の世界」は展示にスポット照明の効果が十分に発揮されました。新設したギャラリーのオープニングの展示は、相澤忠洋による渡良瀬川の沿線に存在した観音巡礼の札所を紹介した「足尾路遺文」の写真展でした。



青少年に伝える相澤忠洋の情熱

後援会会長 山崎弘一

去年の教育改革後初めての正月を迎えました。子供たちに生きる力を付ける総合教育、始まったばかりでその是非は問えませんが、問題はたくさんあるようです。又、少子化の中、青少年の犯罪は伸びを示しています。大人の責任が益々高まっている時代だと思います。しかし親は親、子は子、自分の好きに生きる、親子の自覚のなさ、学校の男女混合名簿採用は、男女別名簿は、差別ではなく、区別であり、父母、親、子、男、女、天与の役割がしっかりしていなくて何故真の教育が出来ましょう。今年は当館の近くに来れた群馬昆虫の森(館長矢島稔氏)が本格的になり、当館も含め子供たちの総合教育エリアになると期待しております。いまだからこそ、相澤忠洋の生き様、情熱、功績、を次の時代を担う青少年に伝え、相澤が追った古代の家庭の団らんのお暖かさを知ってもらいたいと思います。



相澤忠洋の文献より

「北関東赤城山麓に於けるマイクロ・コアの発見」

〔貝塚（考古ニュース）第58号 1956年11月5日〕

相澤忠洋

昭和廿二年深秋、当地方の縄文初頭文化遺跡を踏査中、関東ローム層中に石器文化が存在すると言ふ「奇異なる事実」を発見した。以来、この文化を直接又間接的に諸方面からの調査考察を実施し、「奇異なる事実」の解明のために努力して今日に至つた。

その結果関東ローム層中の石器文化は当地の縄文初頭文化より、先行し、土器を全く伴はぬ特殊な石器を主体とする石器文化で有る事が明となると同時に、この石器文化は、いくつかのグループとなって存在して居る事実も確認出来た。

このグループを大別すると、握槌形石器・刃器形石器・尖頭形石器の三大グループに分ける事が出来、各々のグループ間にはそれ相当の変遷が有り更に各グループの中からは多くの小グループが存在するやに考察が進んで居り（図1）当初に注目した「奇異なる事実」が変わつて来た。

しかして、赤城山麓の関東ローム層中に石器文化の考察が続けられて居た時、それ迄当地に於ては経験しなかつた別の小形石核を中心とする、スモール・ブレイドのグループが芹沢長介氏により、長野県矢出川遺跡に於て明らかにせられた。

此の報に接してより、当地方に於ても此の様なグループが存在するかどうか、と言ふ点に重きをおいて調査を進めて来た。その結果昭和三十年春以来、小形石核を残す石器文化の存在を裏付ける資料が数ヶ所に於て発見されてきた。

それらに付いての詳細は現在調べ中であつて、追て調査の結果は発表出来得る事と思ふが、今その内の二、

三の資料を紹介したい。

今迄に得た小形石核の資料を観察して見ると、形状から見る時二種類に別けられるやに思はれる。

即、一つは、小形の礫を整形し核に適する様にしたもので、今一つは縦長のフレイクの先部を利用して核としたもの、との二種類有る様である。図のAは前者に相当し、Bは後者に相当して居る。図の1は石質は黒耀石であつて、核の一面に七条からなる、スモール・ブレイドの剥離痕を残して居る。（群馬県勢多郡新里村大字武井生目採集）2は、石質角岩で有つてこれも核の一面に七条からなるスモール・ブレイドの剥離痕を残して居る。此の石核の剥離痕は比較的1の石より細く幅は三ミリ内外である。（同新里村大字広間地採集）

3、4は厚みのあるフレイクの先部を利用したもので、裏面には剥離面が見られる。ともに石質は頁岩で有つて2に同じ採集地。スモール・ブレイド剥離面が残つている。

これらの、小形石核より見たスモール・ブレイドの剥離状況は、先ず核の一端を直角又は鋭角として整形し、後にこの角に対して垂直打撃を連続して剥離を行つた様に見られる。又打撃は主として核の側面周縁に集まつている。この事は、剥片をより厚めにより細いものを剥取せんが為ではなかろうかと考えられる。即ち求めているスモール・ブレイドは、厚みの有るより細く長い剥片と思われる。この事を示しているのは図の2の石核と言へる。

以上図の資料は現在までに当地で発見した小形石核を代表するものであつて、類例資料は十数例となつて居る。

さて、此の石核のグループが当初記した当地方の関東ローム層中石器文化の諸グループと如何様な関係を

あきほの

館長 相澤千恵子

相澤は、自宅をお訪ね頂きますと、帰り際に必ず硯と筆を出して、何か一言書いて下さいとお願いしていました。その和綴じの芳名録が十数冊残っています。その一冊から「夏井戸だより」創刊号に掲載の芹沢長介先生の短歌「魚棲まぬ水底のごと翳りふかき夏井戸にきてひとり佇む」の一首も、相澤の懇願によって芹沢先生が揮毫して下さった貴重な記録です。この歌には次の様な前書がありました。「岩宿試掘の日より満24年目の9月はじめ、岩宿の映画試写会を前橋婦人青少年センターに於いて見る」

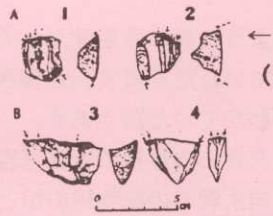
昭和48年9月6日 芹沢 長介

この映画とは教育映画（株）が昭和45年3月21日岩宿遺跡第2次発掘の日にクランクインをし、3年の歳月を経て昭和48年3月に完成した「岩宿の発見 ——

日本の石器時代」のことです。

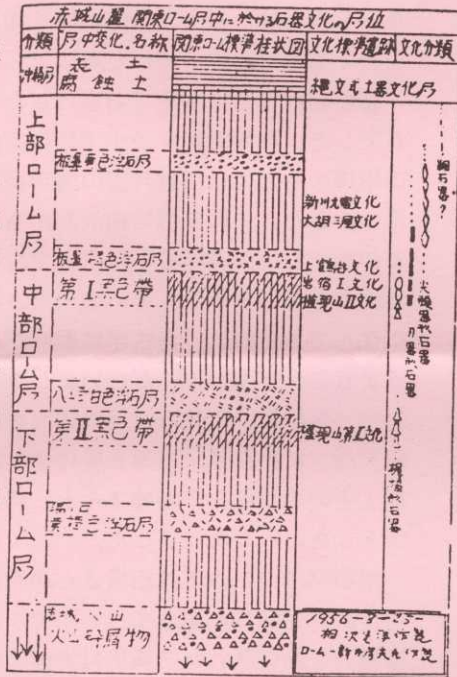
この映画は「文部省選定・学校教材・社会教育映画」と謳われ、原案・撮影指導として東北大学教授芹沢長介、慶応大学教授江坂輝弥、岩宿旧石器の発見者相澤忠洋と記されたパンフレットが作られています。撮影箇所も北海道白滝遺跡、新潟県荒屋、長野県与助尾根・尖石・井戸尻、栃木県星野、群馬県岩宿・権現山・赤城人類文化研究所、千葉県加曾利貝塚、東京都茂呂・大森貝塚、神奈川県夏島、静岡県登呂、愛知県牛川人骨出土地、兵庫県明石、岡山県鷲羽山、香川県豊島ダブカス貝塚、愛媛県上黒岩、長崎県福井洞穴、大分県早水台迄、日本全土を撮影した映画です。クランクインした日の岩宿第2次発掘は東北大学考古学研究室芹沢先生と学生達によって行われ岩宿D地点に於いて岩宿0文化層を発見したのです。この頃は相澤も元気でした。

もつか、又関係があるであろうか、と言ふ事になつて来るので有るが、従来私が調査した先の諸グループの中には、いまだ此の様な小形石核が伴出した事実はまつた



(図2)

くないと言える。とすると此の小形石核とスモール・ブレイドのグループは当地に於ける大グループの中に独立して入り、当地には四大グループが存在する事となつて来るので有る。更にこれらの小形石核のグループが少なくとも関東ローム層中石器文化の終末に近く又包含層位もローム層のより上位に所在する事などが



第二図

事実と考えられて居る時、此の小形石核のグループとより先行すると思はれる尖頭石器文化との関係の考察こそ私達の目標としている所と言えよう。

本稿に於ては問題多い小形石核のグループが北関東赤城山麓の地に於て発見された事を記し其の一部資料を報告するにとどめたい。

終に種々御教導を戴いた山内清男、芹沢長介、尾崎喜左雄、新井房夫、木崎喜雄、平井尚志の諸先生方に対して感謝の意を表したい

(昭和三十一年七月十日稿)

「赤城山麓の旧石器を求めて」

〔月刊考古学ジャーナル〕6月号 №219 昭和58年6月

相澤忠洋

私が、群馬県笠懸村の岩宿の切通しから発見した数点の石器を契機に、日本にも旧石器文化が存在することが確認された昭和24年の岩宿の発掘から数えて、すでに34年が経過しました。

この間に、多くの考古学者や考古学徒の努力によって幾多の旧石器文化の遺跡が発見されて、新しい資料の蓄積が行われ、昭和24年当時、私の発見を否定したり中傷さえした人達も、現在では、その事実を肯定するにおよんで、日本の旧石器文化の研究が定着し、その研究の成果も進み、本当に喜ばしい限りです。

これは一重に、芹沢長介先生を初めとする若い学究の寝食を忘れた努力があったことを忘れてはならないと思うのです。

私は、岩宿の発見後に、全国各地から新遺跡の発見が報告されてくる中で、赤城山麓の村々を自転車を押して納豆の行商で生活を賄いつつ、岩宿の点を拡げるべく、青春のすべてを傾けて赤城山麓を深査したのでした。

その甲斐あって、岩宿に続き、権現山・不二山・桐原・清水山・元宿・三ッ屋・樹形・石山・西鹿田の主要遺跡を初めとする100ヶ所近い旧石器文化遺跡を確認することが出来たのです。

昭和20年代後半になると、学界内で編年作業が始まりましたが、私も赤城山麓の各遺跡から出土する石器の層位や石器のタイプが異なることに気付いていましたから、赤城山麓の旧石器文化の点打作業の次は、編年の作成という、いわば線引作業を始めたわけです。

幸いにも、赤城山麓は、赤土とか、壁土と言われる関東ローム層が秩序正しく堆積しているため、石器の包含層を正しく把握さえすれば、文化の前後関係を明らかにすることが絶好の場所であり、私の作業を比較的楽に進めることができたのです。

赤城山麓の旧石器文化の調査記録を基に整理した結果は、すでに拙著「岩宿の発見」、「赤土への執念」

余 植木住宅資材株式会社

代表取締役 **植木好治**

本社・住宅事業部 群馬県邑楽郡大泉町北小泉1丁目36-24
 木材・建材部 TEL (0276) 62-4541 (代)
 FAX (0276) 63-4755
 サッシ住器部 群馬県邑楽郡大泉町北小泉1丁目8-12
 TEL (0276) 62-5257
 邑楽町営業所 群馬県邑楽郡邑楽町篠塚3866
 TEL (0276) 88-5558

いけす料理・鮨・割烹

おみき

桐生市相生町二丁目五九一
 電話 (0277) 154104
 大小宴会承ります
 一〇〇名様まで

などでご案内のように、おおよその編年を試みる事が出来るようになったのです。

昭和30年代後半から40年代初もなると、早水台・星野・岩宿0文化層の前期旧石器文化が芹沢長介先生によって明らかにされ、私も権現山や不二山文化を残した旧人よりも更に古い原人の文化を追求する作業が新たに始まったのです。

昭和40年前半には、赤堀磯・新里藤生沢の両遺跡を更に昭和46年には夏井戸の山林からも美事な前期旧石器を発見することができたのです。

前期旧石器については、学界内に反対の意見を唱える方もおりますが、私には、岩宿の発見の時にも増して手にした石器から、原人の息吹がひしひしと感ぜられるのです。

前期旧石器文化の研究も端についたばかりとは言い、座散乱木遺跡を初めとして、各地から出土例が報告され近い将来には、その存在が定着する見通しが立つまでになったことは、岩宿の発見にも勝るとも劣らない喜びであり、私も微力ながら一層前期旧石器文化の解明に努力する覚悟であり、そうすることが、私を長い間導いて下さった芹沢長介先生、故尾崎喜左雄先生を初めとする諸先生方と私を陰から支えてくれた多くの友人達に償える道と考えるのです。

最近、健康を少々害して、夏井戸の山林を散策しながら健康回復に専念する毎日ではありますが、この緑豊かな赤城山麓に開発の波が押し寄せて、文化遺産を破壊しないことを念じながら、一日も早く健康を回復して、なし得なかった作業を継続したいと思うこの頃です。
(赤城人類文化研究所長)

相沢忠洋さんに学んだこと

大里仁一

『群馬文化』220号は相沢忠洋先生の追悼号でした。私は追悼文に「群馬県功労賞や吉川英治賞を受賞され、宇都宮大学の講師もされた相沢忠洋さんは相沢先生と表記するべきでしょう。礼を失するかも知れませんが私には先生とおよびすると相沢さんが遠くに離れてし

まうような淋しさを覚えるので、あえて相沢さんと書かせていただきます」と書きました。本日も相沢さんといわせていただきます。

相沢さんの最初の著書『岩宿の発見』の中に上毛電鉄西桐生駅前の乾物屋の娘とのユーモラスな会話が書かれています。当時、私の家は小さな魚屋をしており、相沢さんが時々スルメイカやノリを仕入に来られました。父母も妹たちもこの際に聞く相沢さんの愉快的話をとても楽しみにしていたものでした。

私が相沢さんに初めてお会いしたのは、昭和23年7月でした。群馬師範学校史学研究室が尾崎喜左雄先生の指導のもとに粕川村月田の鏡手塚古墳の発掘調査を行いました。この発掘に相沢さんも参加されました。この前年群馬師範学校予科に入学していた私も調査に加えてもらいました。その頃相沢さんは桐生市横山町に住んでおられ、「考古学に興味があるなら自宅に来るように」と誘ってくださいました。それ以来、日曜日や、冬休み、夏休みなどに相沢さんの「東毛考古学研究所」に出かけ、指導を受けました。所員であった桐工生の堀越さんや加藤さんと一緒に遺跡の踏査や調査をしたこともありました。

昭和24年、この年は相沢さんが明治大学関係者と岩宿遺跡を発掘した記念すべき年ですが、夏の一日、私は相沢さんに誘われて新里村方面の踏査に出かけました。相沢さんの目的は縄文早期の遺跡調査であったようです。上毛電鉄の新川駅で降りて歩きはじめ、板橋まで登って行きました。赤城山南面のかなり標高の高い場所です。太平洋戦争中に開墾された畑が広がっていました。その畑の隅に長径30センチメートルから50センチメートル程の楕円形をした角閃石安山岩(かくせんせきあんざんがん)の上面をやや平らにし、中央部に方形あるいは円形の孔をほったものが数箇所がっていました。相沢さんはそれを私に示して、「これは火葬した遺骨を納めた骨蔵器だと思う。いつの時代のものかは不明だ。恐らくこれを調査している人はいないだろう。大里君が調べてみたらどうか」といわれました。これを契機に私は石製骨蔵器に関心を持ち、わが国に仏教が

全国共通 **花とみどりのギフト券**



株式会社 **紅白生花店**

KOUHAKU FLORIST COP

〒376-0031 群馬県桐生市本町 4-340

本店 ☎0120-10-5089

錦町店 ☎0120-30-5089

伝えられたことによって墓制上の変革が、どのように本県において現れたのかを追求してみたいと思うようになったのです。もっとも師範学校予科生（高校生に相当）のうちには明確な研究目標はつかめず、無我夢中で石製骨蔵器を追い求めるだけでした。本格的に火葬墓を研究対象としたのは群馬大学に入学してからでした。

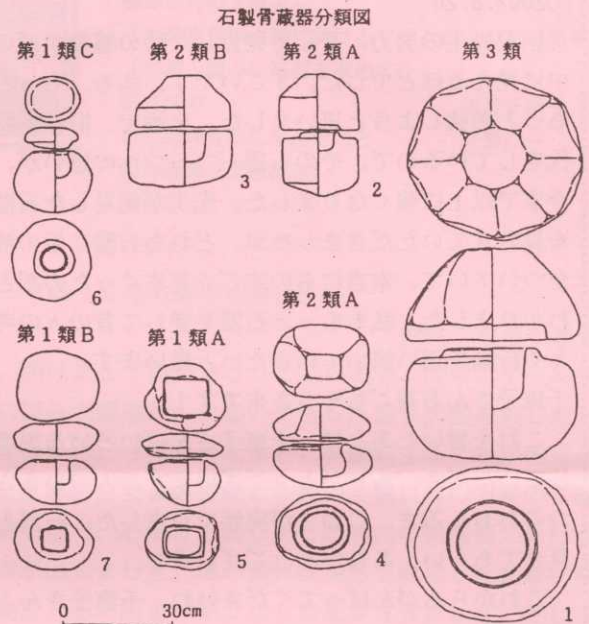
本県にはこれまでに46遺跡110数個体の石製骨蔵器が発見されています。主に赤城山南麓の地域で荒砥川と粕川にはさまれた地域に集中しています。榛名山東麓地域には8箇所出土しています。大部分が開墾や耕作の際の偶然の発見によるもので、出土状態は不明の場所が多いです。加えて伴出する出土品も皆無であり、研究対象とするには魅力がないためか研究者もあまりいないようです。

私は群大生時代の昭和28年に幸いなことにも赤堀村の多田山丘陵で三基の石製骨蔵器が埋葬された火葬墓を発掘調査することができました。これは現在でも貴重な調査例となっています。卒業論文の中で私は石製骨蔵器を第一類A、第一類B、第一類C、第二類A、第二類Bの五形式に分類しました。その後の研究成果をまとめた『群馬県史』通史編2には、第三類が加えられ、石製骨蔵器の使用年代を「仮設として第三類を8紀末から9紀初頭に、第一類Bを10紀後半に位置付け、おおむねこの200年に実施された墓制である」と述べられています。

石製骨蔵器を使用した火葬墓は全国的にみてもきわめて特異なあり方を示すものです。古墳文化時代、東国の中心地として発展した上毛野国は、仏教という新しい思想も他の地域よりも早く受け入れたのでしょうか。火葬墓という革新的な墓制を受容した人々はどのような人たちだったのでしょうか。

小学校の教員となり、職務に追われ考古学への思いはあってもまともな研究など出来ないまま70歳の今日に至っています。しかしまだ私の心の中には少年時代に相沢さんから受けた、「勉強は一生続けるもの」という精神は生きています。感謝です。若い人たちが

「相沢忠洋」の人生を学び、自分の生きる指針の一助とするためにも「相沢忠洋記念館」に来訪されることを願っています。
(桐生市教育資料室室長)



1 熊野火葬墓、2・3 上ノ原火葬墓（大里仁一氏原図に加筆）、
4・5 多田山火葬墓群、6 宝珠寺裏火葬墓、7 鐘木火葬墓

『群馬県史』通史編2

館の動向（寄贈図書）

『ふるさと群馬の文化財』群馬県教育委員会

平成14年3月28日

『歴史の資料』(株)正進社

『歴史で見る日本』NHK教育セミナー

日本放送出版協会 2002年4月1日

『日本の歴史資料集』1 岩崎書店 2002年4月10日

『週間ビジュアル日本の歴史』No.101

(株)デアゴスティーニジャパン 2002年2月5日

『再現日本史』原始・奈良1 講談社

平成14年1月8・15日合併号

(発行社から寄贈・年月日は発行年月日)

「一本の糸から始まる芸術

美と個性への追究と提案」

〒376-0053 群馬県桐生市東久方町1-1-55

金谷レース工業株式会社

TEL 0277-45-2104 FAX 0277-47-0758

会員ネットワーク

記念館にある感想ノート・ハガキより（敬称略）

①2002.8.20

相沢先生の努力、そして発見した時の感動が頭の中に見えるほどでした。すごいです。私も、もっともっと勉強しようと思いました。卒論で、旧石器時代をしているので、その石器一つ一つへの思いが、今まで以上に強くなりました。先生が発見した石器を見させていただきましたが、どれも石器に手の油がついていて、本当にものすごく見まくったのだとわかりました。私ももっと石器を愛して昔の人の考えや行動を思い描いていきたいと思います。

千恵子さんお茶ごちそうさまです！

これを書いたあとに、千恵子さんにいろいろ説明していただき、ありがとうございます。人のいきさつのおもしろさ、こわさが実感できました。石器も見せてもらい、ありがとうございます。

これからもがんばってくださいね。千恵子さん！大好きっすよー！

（岡山理科大学 考古学ゼミ所属・立岡 隼行）

②2002.8.26

相沢さんがあんなにいせきをみつけたなんてしかなかった。相沢さんが石器を見つけるときもくろうしていたのにそんなにたくさんのいせきをみつけたなんてほんとにすごい。（南中1年・宮崎 生）

③2002.8.25

ぼくは今日、やりさきがたせっきを見て、むかしの人のぎじゅつはすごいとおもった。

（ボーイスカウト・山岸 孝行）

④2002.8.26

いい勉強になった。

（笠懸町立南中 1年・藤生 竜也）

⑤2002.9.21

教科書にはちょっとしか書かれていなかったのでもっと色々知ることができて良かったです。石器が本当にきれいだなあと思いました。

（群馬県吾妻町・諸岡 礼）

⑥2002.10.5

相澤さんの半生の様子が伝わってくるようなご説明をうかがい、大変感じることがありました。昭和元年生まれの方ということですから、戦前の生活の厳しさ、戦争中の兵役のこと、戦後の納豆売りの生業をしながら、一重に考古学に対する情熱を持ち続けられたことを、感銘を深くします。相澤さんが発掘されたのは岩宿遺跡だけではなくたことを、あらためて知りました。いちずな生き方であり、尊い生き方であったことを、やはり感銘を受けます。昭和の時代（封建性）から平成の時代（精神的な活動が重視される時代）になって、相澤さんの軌跡があらためて見直される時代になったのではないかと思ったりします。

（山形市・佐藤清道）

⑦2002.11.9

私は本庄市の久々宇という所の生まれです。岩宿遺跡のある笠懸にも久宮という地名があり昔し村の人より群馬のクグウというところから人が移り住んだのが久々宇の始まりだ…などどうことを聞いたことがあります。そんなことから岩宿には感じる所があり、いつか行ってみようと思いながら今日になってしまいました。本日、日本の歴史を変えた石器の本物を見られたことを幸せに思います。

日本も変な時代になってしまいました。石器を取られたりしないようお気付ください。そしていつまでも本物の展示が続けられることを願っています。

（埼玉県本庄市・大塚 久嘉）

リニューアルのご協賛ありがとうございました（敬称略）[宮城県] 守屋好子 [栃木県] 田中史朗・(株)てまりや・町田正行 [長野県] 塩沢隆 [群馬県] 星野弥一・石原条・石井喜美江・太田誠・森寿作・三浦寛子・高橋光枝・金子悦子・新井一江・新井充・磯村勇三郎 [埼玉県] 田村岳峰・田村和子・川崎柳次郎 [東京都] 今村純海・古川峰康・観世喜之・(株)リプロ [神奈川県] 藤間潔子・古川純一・片平阿佐子 [千葉県] 前沢治男・前沢弘・横山マキ子 [山梨県] 小野良平 [岐阜県] 平塚林司 [愛知県] 杉浦みな子 [大阪府] 胡晴恵・竹内浩 [愛媛県] 長井謙治

雑木林 迎春。天空から舞い降りてくる雪を見ながら現在より数段寒さが厳しく苛酷な環境下での旧石器時代の人々は、どの様にして生き抜いたのであろうか、などとふと考えました。芹沢先生からは昨年9月調査された早水台遺跡の成果速報を、大里氏には文化講演の内容をまとめていただきました。相澤忠洋著作＝芹沢先生の長野県矢出川遺跡調査(1953)に参加し触発され、赤城山麓でのマイクロコアの存在を報告した貴重な文献です。

ごあんない

開館時間 10:00~17:00 駐車場 大型バス可
休館日 月曜日、12月29日~1月3日 交通 東武伊勢崎線・上毛電鉄
入館料 大人500円 子ども250円 赤城駅下車 4分
団体割引 大人400円 子ども200円

相澤忠洋記念館会報 No.4 2003(平成15)年1月1日発行(c)

発行 相澤忠洋記念館

編集 相澤忠洋記念館後援会

〒376-0131 ☎0277-74-3342 ☎74-3350

群馬県勢多郡新里村奥沢537